

# 事業活動報告

令和5年度

自 令和 5年 4月 1日  
至 令和 6年 3月 31日

公益社団法人京都市児童館学童連盟

京都市南区東九条東山王町27番地  
元山王小学校北校舎2階

## 概 説

新型コロナウイルス感染症の位置づけは、これまで、「新型インフルエンザ等感染症(いわゆる2類相当)」としていましたが、令和5年5月8日から「5類感染症」になりました。この5類移行に伴って、各児童館・学童保育所では、引き続き警戒は続けながらも、各種取組は徐々に「コロナ以前」に近づくこととなりました。

4月に政府は、子どもや若者の視点に立ち、子どもにとって最善の利益を第一に、当事者の意見を政策に反映する社会の実現を基本理念とする「こども基本法」を成立させ、これまで厚生労働省や文部科学省に分散していた子ども・子育て関連施策の総合的行政機関として「こども家庭庁」を設置しました。ここでは「こどもまんなか社会」の実現を謳い、「異次元の子育て支援」「こどもの権利の尊重」を大きく位置づけ、全ての子どもが権利を保障されながら幸せに暮らし、健やかに成長できるよう、社会全体で後押しすることを目標としています。この目標の実現のためには、子どもに直接関わる施策のみならず、大人の「働き方」や、大人の子どもへの「向き合い方」も含めて問われていると言えるでしょう。「こどもまんなか社会」の実現に向けた取組イメージの中で児童館・学童保育所は学齢期の「こどもの居場所」として位置付けられています。しかし児童館は学齢期の児童にとどまらず、乳幼児から高校生世代までを対象とした施設であることから、地域における子どもの拠点として、その役割が期待されています。

「こども家庭庁」の発足を契機にあらためて「こどもの居場所」に注目が集まる中、連盟では事業推進委員会を中心に居場所や子どもの主体性、意見の尊重をテーマに学習会、研究会を開催し、市内の先駆的な実践報告をベースに、今後求められる児童館・学童保育所の役割、重要視すべき視点について議論を深めました。研修事業については各科目において多くの受講者を迎え、それぞれのテーマに基づいて実施しました。各会員法人、施設の意識の高まりを感じることができました。統合育成事業では委員会独自の研修の開催やケースカンファレンスの支援を行いながら、各施設の要請に基づき、巡回支援を強化しました。

一方、令和6年4月段階で学童クラブの登録児童数は16,000名を超え、そのニーズは高まる一方です。正規職員の他、クラス担当やクラス主任の確保など、事業を担う人材の確保と定着が大きな課題となっており、連盟としても就職フェアへのブース出展やマッチングセンターの活性化などの取組を強化することが求められています。また、学童クラブ利用児童の増加と自由来館児童や中高生世代にむけての取組のバランスが課題となっています。さらに、ICT事業については会員施設の声を反映しながら改善しつつあり、利用者にとっては、入会、継続登録手続きを各種デバイスで行うことも定着化してきています。さらに使いやすいシステムの構築に向けて、サポート体制の強化が求められています。

あらためて子どもの権利擁護が国の中心的課題になる中で、児童館・学童保育所の活躍が期待されています。以下にその活動を振り返ります。

# I 健全育成・子育て支援事業

## 1 各委員会活動

### (1)事業推進委員会

#### 1 令和5年度 事業目標

本委員会は、「京都市児童館活動指針」（以下、「活動指針」という）の浸透を図り、児童館・学童保育所が「活動指針」に基づいた活動を推進することを支援し、児童館・学童クラブ事業の全市的発展・推進を図ることを目的として設置している。令和5年度の委員会は、活動指針のより一層の浸透を図るため、職員の経験年数に応じて、初任者を含め勤続3年未満の職員を対象とした「活動指針学習会」と、3年以上の中堅以上職員を対象とした「活動指針研究会」を実施する。また、こども家庭庁設立に伴い、国や子ども施策の動向を捉え、今後推進していくべき児童館・学童クラブの活動について考える取組を実施する。

#### 2 令和5年度 活動報告

活動方針に基づき、11月に「活動指針学習・研究会」を開催しました。今年度は新たな取組として、経験年数3年未満の職員は学習会、経験年数3年以上の職員は研究会として対象者を分けて開催しました。全体テーマとして「こどもがまん中」を掲げ、子どもの視点に立ち、子どもの最善の利益を第一に考えた支援や取組になっているのか、また、子どものためにと行って行ったことが、結果的に子どもに我慢を強いることになっていないかなど、支援や取組を振り返り、新たな視点を考える機会としながら、研究会では4つのテーマ（子ども育成・子育て家庭支援・地域福祉・学童クラブ事業）に沿って事例報告を基に活動指針を振り返りました。学習会では3つのテーマ（子ども育成・子育て家庭支援・学童クラブ事業）に沿って活動指針の基礎的な理解を深めました。

また、「こどもまんなか社会」の実現に向けて令和5年4月からこども家庭庁が創設され、子どもが意見を述べる機会の提供や居場所としての役割が求められている中で、他都市の児童館実践をもとに、今後の推進していくべき活動や実践について考える機会としました。

#### 令和5年度 活動実績

月	活動内容 / 指針に関わる動き	委員会 / 会議
4月	年間の活動について	第1回正副委員長会議 (4/18)
5月	年間の活動計画決定	第1回委員会 (5/25)
6月	「こどもがまん中」社会における児童館・学童クラブについて 活動指針学習・研究会について	第2回委員会 (6/26)
7月	「こどもがまん中」社会における児童館・学童クラブについて 活動指針学習・研究会について	第3回委員会 (7/21)
8月		

9月		各ブロック活動指針学習・研究会事前打合せ会議 (9/4、7、8、21、25、26、29)
10月	「こどもがまん中」社会における児童館・学童クラブ～他都市の実践事例から考える～の開催と振り返り 活動指針学習・研究会に向けて	第4回委員会 (10/18)
11月	活動指針学習・研究会	
12月	(11/9、10、15、16、24、28、12/4)	
1月		
2月	活動指針学習・研究会の振り返り 令和5年度の活動を振り返って 令和6年度活動計画について	第5回委員会 (2/28)
3月		活動指針学習・研究会報告集の発行

## (2) 処遇・施設委員会

### 1 令和5年度 事業目標

「京都市はぐくみプラン」ならびに、「活動指針」を推進する立場から職員処遇、施設・設備のあり方を検討しながら、令和6年度の京都市予算の要望項目の検討を行っていきます。また、若年層（経験年数5年以内）の離職者が増えてきている現状と、求職者の傾向として年間休日の日数や年休の取りやすさ、残業の少なさ等を重視する傾向がみられる中で、連盟運営館で試行している4週8休制について引き続き検討を進めていきます。

### 2 令和5年度 活動報告

今年度の要望項目の検討として、「京都市児童館事業委託料（人件費相当額）算定基準」の水準の底上げと級位制の導入を求めること、また、産休・育休等取得者が年度途中からの復帰する場合、現在の給与積算の考え方では不足が生じる場合があることの改善、1クラス運営の学童クラブ職員配置基準の見直しについて昨年度からの継続的な要望項目として伝え続けることを確認し、委員会の意見として予算対策特別委員会へ挙げました。また、分室や施設外クラスといった施設を分けて運営することの厳しさを鑑みて、施設外クラス及び分室の設置場所を学校等との「共有」ではなく、「専有」とすることを求めることや、職員の体制として責任と権限を有する施設長に変わる責任者を配置することについては、昨年度より強く要望することを確認し、委員会の意見として予算対策特別委員会に伝えました。結果として、月例給与3.1%増、ボーナス0.1箇月増相当の委託料の増額、分室及び大規模な学童クラブにおける補助職員雇用に係る委託料の新設といった回答を得ることとなり、事業を前進させるために必要な要望を連盟全体で集約し、挙げていくことを来年度も続けていくことを確認しました。

また、4週8休制を試行実施している連盟8館の実態を調査するために、ワーキンググループを組織し、アンケート調査とヒアリング調査を行いました。アンケート調査で、全体の傾向をヒアリング調査で詳細

についての内容を確認する中で、職員として休日が増えたことによるリフレッシュや仕事のモチベーションになっていることや、一方で利用者支援が継続的に進めることが難しくなっていること、休日も仕事が気になること等の職員の実感が浮き彫りになりました。そうした調査内容をもとに3つの提言を示し、理事会への報告書としてまとめました。

#### 報告書の提言

- ① 4週8休制を全ての施設で実施できるよう、必要な予算を確保するべく連盟を中心に行政に対して働きかけをより一層強化すること
- ② 連盟は積極的に4週8休制試行の経験を公開し、各運営主体と情報共有しながら実施の施設を拡大し、より多くの経験を収集し共有を図ること
- ③ 施設長の施設マネジメントを支援する取組を強化することとともに、非常勤職員の放課後児童支援員資格の取得を推進すること

3 令和5年度 活動報告			
月	会議等(日)	活 動 内 容	
		京都市予算に関わる内容	4週8休制導入に関わる内容
5月	第1回 正副委員長会議 (15日)	-令和4年度より引継事項の確認 -今年度の活動と基本方針について -予算対策特別委員会について	-ワーキンググループの設置 -活動計画について -スケジュールについて
6月	第1回 委員会(2日) 第1回ワーキンググループ会議(13日)		
7月	第2回 委員会(20日)  第2回ワーキンググループ会議(10日)	-各ブロックからの意見集約 -要望書の内容決定について	-アンケート項目について -アンケートの実施方法について  -連盟8館でアンケートを実施(8月30日~9月8日)
9月	第3回ワーキンググループ会議(27日)		-4週8休制の効果検証のためのアンケート結果について
10月	第4回ワーキンググループ会議(6日) 第5回ワーキンググループ会議(20日)		-アンケート調査結果と分析 -ヒアリング調査の内容検討
11月	ヒアリング調査打ち合わせ(10・14日)		ヒアリング調査 (21・27・30日・12月11日)
12月	第6回ワーキンググループ会議(20日)		ヒアリング調査報告と共有

2月	第7回ワーキンググループ会議 (21日)		-4週8休制施行実施報告書の検討
3月	第3回委員会 (8日)	-京都市予算に対する要望書と回答 -今年度のふりかえり -来年度の委員会について	-4週8休制施行実施報告書(案) -活動の振り返り

### (3) 予算対策特別委員会

#### 1 令和5年度 事業目標

予算対策特別委員会は、連盟理事会の諮問機関として、理事会が京都市に働きかけるための要望書を起案し、京都市の児童館・学童クラブ事業を安定させるための制度・政策の向上と予算対策活動の推進を行います。

各専門委員会の意見・要望等を横断的に聴取・集約することで実情に合った要望をすくい上げると同時に、京都市児童館活動指針の十分な推進を旨として予算要望が策定されるよう委員会活動を行います。

#### 2 令和5年度 活動報告

- 1 第1回 委員会 (7月7日)
  - ・年間スケジュールの決定
  - ・各専門委員会からの要望事項の集約
- 2 第2回 委員会 (7月21日)
  - ・令和6年度京都市予算に対する要望書(案)の検討
- 3 第66回 理事会において要望書(案)を提示し承認を受ける (9月22日)。

(以下要望骨子)

##### (1) 最重要要望

- ①活動指針に基づく児童館事業の円滑な実施のために必要な事業費の確保
- ②多様化する放課後対策の中であって、一元化児童館における学童クラブ事業の京都市の位置づけの堅持
- ③必要な人材を安定的に確保するため給与体系を抜本的に改善することが可能となるような委託料(人件費相当額)の確保、算定基準における昇給カーブや職責に応じた給料表の見直し、実際に要する人件費を基にした委託料算定
- ④分室及び施設外クラスの施設環境の整備及び副館長的職員の配置に必要な措置並びに一元化児童館130館の枠にとらわれない積極的かつ柔軟な対応
- ⑤学童クラブ1クラス運営の児童館における正規職員4名体制の復活

##### (2) 重点要望

- ①「京都やんちゃフェスタ」の復活
- ②超過勤務手当の積算について全施設が年間を通じて不足なく支給できる措置

- ③地域の子育て支援・健全育成の拠点として多様な市民が来館されることを踏まえ、トイレの洋式化・バリアフリー化を含む施設の計画的な整備
- ④事業費加算の増額
- ⑤職員確保と定着の観点から、住宅手当・扶養手当の支給が可能となる措置の創設
- ⑥人材確保のために、行政を退職後に採用された施設長の給与格付けの引上げ、館長手当の増額に見合う予算配置

### (3) 要望

- ①障害のある児童の登録人数が増加する中で介助ボランティアに対する謝金単価引上げと交通費の創設
  - ②経年劣化の危険性がある既存の非常通報システムの在り方の見直し
  - ③個別対応が必要な子どものために必要なスペースを確保するための施設増改築の検討
  - ④利用者及び職員の感染防止のための支援の継続
- 4 「令和6年度京都市予算に対する要望書」の京都市への提出（10月2日）
- 5 要望に対する回答（令和6年2月27日）

令和6年度京都市児童館・学童クラブ事業関係予算案についての説明が連盟三役に対してなされました。

○令和6年度京都市一般会計予算概要

児童館・学童クラブ事業等 令和6年度予算額 【4,849百万円】

令和5年度予算額 【4,444百万円】

その後の懇談の場において、委託料（人件費相当額）の引上げ、大規模な学童クラブや分室の運営体制に対する支援、京都やんちゃフェスタ、民設児童館等トイレの整備補助、京都市における放課後留守家庭対策に係る方針、4週8休制の導入等の点について確認と意見交換を行いました。

### 6 第3回 委員会（3月6日）

- ・「令和6年度京都市予算に対する要望書」に対する京都市回答の報告
- ・令和6年度予算特別委員会活動予定案の決定

委託料算定基準の改定に当たり市職員給与の平均改定率ではなくより高い改定率である行政職給料表1級の改定率を用いたことや、各専門委員会に可能な限り京都市の担当者が御出席いただいていることなど、この間の京都市の対応がかなり良い方向に向いてきていることを評価するとともに、京都市とのパートナーシップ・協力関係を保ちつつも連盟として言うべきことは言うという姿勢が大切であるとの認識で一致しました。

(4) 研修委員会「2 児童館・学童保育所職員の資質向上のための研修」の項を参照。

(5) 統合育成委員会「3 障害のある児童の統合育成事業」の項を参照。

(6) 広報委員会「5 広報活動」の項を参照。

(7) やんちゃフェスタ 2024 実行委員会「5 京都やんちゃフェスタ 2024 の開催」の項を参照。

## 2 児童館・学童保育所職員の資質向上のための研修

### 1 令和5年度 事業目標

「京都市児童館活動指針」に基づき、児童館・学童保育所職員の資質向上を目的に、京都市から受託する児童館・学童保育所職員研修事業を実施します。

中堅職員向けの研修では、児童館を取り巻く現状と、児童館の魅力や意義を伝えていきます。また、施設長向けの研修では、コンプライアンスや施設マネジメントなどの研修を通し、倫理意識の高い組織づくりを目指して運営を行っていただけるような内容を取り入れていきます。

### 2 令和5年度 活動報告

研修受講機会を確保するため、令和5年度 京都市児童館・学童保育所職員研修会についても、新型コロナウイルス感染防止対策を講じたうえで、研修体系にのっとった科目を実施しました。研修形態は研修効果を考慮して集合研修を実施しました。

各研修会は毎回概ね100名前後の参加者を迎えており、各施設の職員育成への関心の高さがうかがえます。特に発達理論系の研修会の参加者が多く、発達特性を踏まえた活動を展開しようとする施設や職員の意識を反映していると考えられます。

中堅職員派遣研修については、他法人、他ブロックの児童館で約2週間の研修を行うことから、通常の研修会では得られないような貴重な経験を得る研修となっています。受け入れる児童館にとっても、活動を展開する上で他館の職員から違う視点を得る刺激となっており、委員会では中堅派遣研修の持つ、このような研修効果の高さを確認し、研修委員が各ブロックで積極的な参加を呼びかけました。

一般財団法人 児童健全育成推進財団主催の研修への京都市からの研修派遣については、現地での対面形式やZoomを用いたオンライン形式で実施されました。各施設でのオンライン研修受講環境が整ってきたこともあり、安心して派遣研修に参加することができました。

#### 1 委員会（年間5回：4月、6月、9月、11月、2月）

- ・ 行政研修、派遣研修の内容や予定の確認と、実施した研修の報告
- ・ 全7ブロックで実施するブロック企画研修の立案、企画、事後報告

#### 2 研修会

##### (1) 行政研修

#### 基礎（初任者）研修会

参加者数：「健全育成論」 71名 「児童館論Ⅰ」 56名  
「京都市の児童館・学童クラブ事業」 71名  
「児童館論Ⅱ」 58名

日時：4月27日（木）・28日（金）

講師：「健全育成論」 國重晴彦（京都市児童館学童連盟 常務理事・健全育成・子育て支援統括監）



「児童館論Ⅰ」 木戸玲子 氏 (修徳児童館 館長)  
「京都市の児童館・学童クラブ事業」 長谷川亮 氏 (桂児童館 館長)  
「児童館論Ⅱ」 塩見敏晃 氏 (羽束師児童館 館長)

#### 救急法「普通救命講習Ⅲ」

参加者数：77名 (合計)

日時：5月16日 (火) 醍醐消防分署 5月17日 (水) 伏見消防署  
5月22日 (月) 右京消防署 5月23日 (火) 下京消防署  
5月24日 (水) 左京消防署 5月25日 (木) 北消防署

#### 安全指導・安全管理

参加者数：109名

日 時：5月30日 (火)

テーマ：施設運営における子どもの安全を考える

講 師：松井典夫 氏 (奈良学園大学 教授)

#### 中堅職員派遣研修

派遣者数：19名

事前説明会	6月 5日 (月)
事前研修会 (オリエンテーション)	7月20日 (木)
派遣研修期間	9月 1日 (金) ~ 15日 (金)
事後報告会 (研修者報告会)	10月25日 (水)
事後報告会 (施設長報告会)	10月31日 (火)

#### 実技研修

##### 第1ブロック「児童文化財活用法」

参加者数：25名 日時：6月28日 (水) 講師：岩城敏之氏 (キッズいわき ぱふ)

##### 第2ブロック「ゲーム・運動遊び」

参加者数：35名 日時：6月14日 (水) 講師：丸本泰三氏 (京都市北白川児童館)

##### 第3ブロック「科学遊び」

参加者数：35名 日時：6月21日 (水) 講師：平河翔氏 (つくるまなぶ京都町家科学館)

##### 第4ブロック「音楽表現活動」

参加者数：30名 日時：6月8日 (木) 講師：中村有季氏 (ローランド音楽教室)

##### 第5ブロック「造形表現活動」

参加者数：32名 日時：6月22日 (木) 講師：三浦正人氏 (京都市御室児童館)

##### 第6ブロック「身体表現活動」

参加者数：34名 日時：6月20日 (火) 講師：平井恭子氏 (京都教育大学 幼児教育科)

### 第7ブロック「野外活動」

参加者数：28名 日時：6月7日（水）

講師：砂山真一氏（ポジティブアースネイチャーズスクール（PENS ペンズ））

#### 配慮を要する児童の対応

参加者数：109名 日時：7月11日（火）

テーマ：発達に課題のある子どもの理解と支援 ～発達心理学の視点から～

講師：田爪宏二氏（京都教育大学 教育学科）

#### 児童文化財活用法2

参加者数：58名 日時：7月12日（水）

テーマ：子どもの言葉と心を育む絵本

講師：徳永加代氏（帝塚山大学 教育学部 こども教育学科）

#### 地域援助技術

参加者数：90名 日時：9月28日（木）

テーマ：地域の中の児童館～つなぐこと、寄り添うこと～

講師：鎮朋子氏（梅花女子大学 こども教育学科）

#### 児童の発達理論（学童期）

参加者数：137名 日時：10月20日（金）

テーマ：学童期の発達を考える

講師：青木好子氏（佛教大学教育学部）

#### 障害のある児童の統合育成

参加者数：98名 日時：10月24日（火）

テーマ：発達特性のある子どもの理解と支援について

講師：山本美紀氏（京都市教育委員会 総合育成支援課）

#### ブロック企画研修（「児童館・学童クラブ活動研究Ⅰ」）

### 第1ブロック

参加者数：20名 日時：令和6年2月9日（金）

テーマ：性教育について

講師：藤原朋子氏（京都府助産師協会）

## 第2ブロック

参加者数：20名 日 時：10月6日（金）

テーマ：やさしい言葉の使い方や文章の伝え方について

～外国人とのやり取りの際のポイントに学ぶ～

講 師：宮島みどり 氏（「やさしい日本語」を広める会）

## 第3ブロック

参加者数：25名 日 時：12月15日（金）

テーマ：ゲームのメリット・デメリットから子どもの世界を知る

講 師：吉川徹 氏（愛知県医療療育総合センター中央病院 子どもどころ科部長 児童精神科医）

## 第4ブロック

参加者数：23名 日 時：11月29日（水）

テーマ：自尊感情を育むために

講 師：毛利豊和 氏（京都市教育委員会 教育相談総合センター 専門主事）

## 第5ブロック

参加者数：16名 日 時：10月19日（木）

テーマ：保護者のための情報モラル教室

～安全で安心なインターネット利用のために～

講 師：菅原邦美 氏（情報モラル市民インストラクター）

## 第6ブロック

参加者数：23名 日 時：12月12日（火）

テーマ：課外活動と短い時間でできる遊びについて学ぶ

講 師：各館職員による実践交流

## 第7ブロック

参加者数：27名 日 時：11月1日（水）

テーマ：おたより・広報のより良い見せ方

講 師：山中美知世 氏（特定非営利活動法人やさしいデザイン）

人権研修
------

参加者数：90名 日時：令和6年1月22日（月）

テーマ：子どもにはチカラがある～子どもの権利条約と児童館・学童保育所の役割～

講 師：浜田進士 氏（特定非営利活動法人 青少年の自立を支える奈良の会 理事長）

### 中堅研修「ソーシャルワーク論」

参加者数：46名 日時：令和6年1月23日（火）・30日（火）  
テーマ：脱KKD（経験・カン・度胸）とアセスメント  
講師：浦田雅夫氏（京都女子大学 発達教育学部 児童学科 教授）

### 中堅研修「特別講義」

参加者数：69名 日時：令和6年2月8日（木）  
テーマ：遊びは学び ～乳幼児の遊びを支えるもの～  
講師：嶋田容子氏（同志社大学赤ちゃん学研究センター）

### 上級研修

参加者数：27名 日時：令和6年2月29日（木）  
テーマ：SNSの活用による「人と地域」とのコミュニケーション  
講師：南部和久氏（株式会社関広）

### 施設長研修

参加者数：94名 日時：令和6年2月9日（金）  
テーマ：チーム力を高める人材マネジメント  
講師：小林雄二郎氏（エイデル研究所 常務取締役 京都支社長）

## (2) (一財) 児童健全育成推進財団への派遣研修

### 児童厚生員等基礎研修会（東京会場）

期間：7月4日（火）～7日（金）  
派遣者：南角瑞穂 厚生員（葵） 木田遥陽 厚生員（高野） 井口佳奈 厚生員（同心）  
采野加奈絵 厚生員（嵯峨広沢） 山下菜穂 厚生員（住吉）

### 児童厚生員等基礎研修会（大阪会場）

期間：9月5日（火）～8日（金）  
派遣者：稲井優介 厚生員（室町） 川北千尋 厚生員（中唐戸） 清水将光 厚生員（修徳）  
坂本隼哉 厚生員（西陣） 木下幸子 厚生員（壬生）

### 中堅児童厚生員等研修会

期間：10月18日（水）～20日（金）  
派遣者：栗田知 厚生員（久世） 藤崎吾郎 厚生員（村松） 岡本香 厚生員（西野）  
大上杏子 厚生員（嵯峨） 楠本麻衣 厚生員（向島南）

## 全国児童厚生員等指導者養成研修会

期 間：12月13日（水）～15日（金）

派遣者：藤井淳 館長（今熊野） 谷口敦 厚生員（大宮西野山） 安土真代 厚生員（向島南）

## 全国子どもの健全育成リーダー養成セミナー

期 間：令和6年2月2日（金）

派遣者：溝口晋太郎 館長（たかつかさ） 木戸玲子 館長（修徳） 仲井賢一 館長（葵）

片山雅斗 館長（大宅） 中川佳小鯉 館長（太秦） 内田克明 館長（深草）

山田英二 館長（向島南） 勝守昭子 館長（桂徳）

### 3 障害のある児童の統合育成事業

#### 1 令和5年度 事業目標

- 1 ノーマライゼーションの理念とインクルージョンの考えに基づく学童クラブ運営と統合育成事業の推進を図る。
- 2 障害・発達特性や配慮の必要な児童を支える関係機関との連携及び協力体制の確立を目指す。

#### 2 令和5年度 活動報告

・学童クラブ登録児童が年々増加する状況の中で、障害のある児童も含め、配慮の必要な児童が増加傾向にあります。障害のある児童に対する理解の促進や、適切な対応を全職員ができることを目指し、統合育成発達障害及びその他の多様な障害に関する委員会独自の研修計画を立て、施設職員のニーズに応じた研修を予定どおり全て実施することができました。

・関係諸機関との連携並びに介助者派遣事業については、具体的な方策を基に継続して推進することができました。

##### 【活動内容】

(1) 委員会は年6回開催5月・6月・9月・11月・1月・2月

・主な案件は、研修会の案内及び実施報告、ケース検討会報告、各館への巡回報告、統合育成担当者巡回報告、各ブロック情報交換及び討議

(2) 研修会の開催

介助者研修会（2回 実施）

【第1回 講演】 7月 6日（木）ひとまち交流館京都

テーマ：「自己表現が苦手な子どもとの関わり～音楽活動を通して考える～」

講 師：花園大学 専任講師 岡ひろみ氏

参加者：78名

【第2回 講演&情報交流会】 11月29日（水）京都アスニー

テーマ：「障害のある子どもの理解」

講 師：京都市児童館学童連盟 主任厚生員（統合育成担当）岡崎 達也

参加者：88名

(3) ケース検討会議の開催（8回）…全体会1回・各ブロック希望児童館—7館（7回）

- ・全体会は9月12日（火）に開催

テーマ：児童館でのケース検討会議の進め方について

講 師：京都教育大学 教授 田爪宏二氏

参加者：22名

- ・ケース検討会議

10月 3日（火）3B 清水児童館 10月12日（木）5B 向上社児童館

10月24日（火）2B 久世西児童館 10月31日（火）1B じゅらく児童館

11月16日（木）7B 桂川児童館 11月28日（火）6B 住吉児童館

12月12日（火）4B 小野児童館

(4) 「発達障害実践セミナー」（4回 実施）

「発達支援基礎講座Ⅰ」6月13日（火）京都テルサ

テーマ：「発達特性のある子どもの評価 ～アセスメントから支援に繋げる～」

講 師：京都光華女子大学 准教授 大谷多加志氏

参加者：63名

「連続講座 1回目」7月14日（金）京都アスニー

「連続講座 2回目」9月15日（金）京都アスニー

テーマ：「ティーチャーズトレーニング」

講 師：佛教大学教授 免田 賢氏

参加者：33名

「発達支援基礎講座Ⅱ」令和6年2月14日（水）京都教育文化センター

テーマ：「子どもの得意を伸ばす ～豊かな成人期を迎えるために～」

講 師：京都市児童館学童連盟 主任厚生員（統合育成担当）岡崎 達也

参加者：63名

(5) 介助者派遣事業について

- ・大学、専門学校、障害児親の会、ボランティアサークル等へのポスター・チラシの掲示及び配架・配布依頼の実施
- ・新聞、広報誌、機関誌への募集記事の掲載
- ・毎週金曜日の登録事務の実施

(6) 担当主任児童厚生員の巡回業務について

・学童クラブ登録児童の行動観察	172回
・事例検討会・研修会	35回
・関係機関協議	32回
・保護者相談	44回
・乳幼児クラブの保護者相談等	77回

## 4 広報活動

### 1 令和5年度 事業目標

・広報物については、読み手にとって親しみを持たれる誌面を目指し、常に誌面刷新の意識をもって活動を展開します。

・京都市児童館学童連盟の広報誌「キッズステーション」については、公益性を意識し、市民に対し児童館・学童保育所の活動をPRすることを目的に発行します。よりたくさんの市民の皆さんに児童館・学童保育所を知っていただき、児童館の魅力が伝わる内容を掲載します。

・「れんめい ニュースレター」は、職員情報誌として、職員研修会の報告、連盟の各委員会、理事会等の動きを正確・迅速に伝えることを目的に発行を行います。

・児童館・学童保育所の活動と当連盟の事業をPRするため、ホームページの管理・更新を行います。また、デジタルコンテンツ化したホームページ作成マニュアルを各施設に浸透させることで、より多くの職員がホームページに携われる環境となるように支援していきます。

### 2 令和5年度 活動報告

1 委員会の開催（7回）…①5月12日 ②6月22日 ③7月19日 ④8月28日  
⑤11月17日 ⑥1月24日 ⑦3月4日

2 広報誌「キッズステーション」の発行

(1) 発行回数：年2回（4月・10月発行）6号・7号

作成については、7号・8号

(2) 発行部数：1回につき、約14,000部

(3) 配付先：各児童館・学童保育所、育成推進課、福祉・教育関係機関及び団体、各区子どもはぐくみ室、市内19箇所の図書館、報道関係、京都学・歴彩館、連盟理事・監事等（約90箇所）

〔主な記事〕

7号（10月）：「どうする！？新1年生 児童館でモヤモヤ不安をわくわくに！」

8号（4月）：「かわいいだけじゃない いろいろあるねん子育て！」

### 3 職員情報誌「れんめいニューズレター」の発行

- (1) 発行回数：年12回（毎月10日発行） 322号～333号
- (2) 発行方法：発行を知らせる全館所メールとアルファオフィスへの掲示、関係機関へは郵送
- (3) 送付先：育成推進課、関係機関、連盟理事監事等（16箇所）

### 4 ホームページ「京都市の児童館」の活用状況

- (1) 児童館・学童保育所の活動及び当連盟の事業をPRすることを目的とします。
- (2) 当連盟の事業に関する情報についても随時更新を行いました。

## 5 とびだせ！やんちゃんねるの開催

### 1 令和5年度 事業目標

広く市民に向け児童館・学童保育所の魅力を発信、PRしていきます。令和5年度からは、過去3年の経験をもとに、より広く市民の皆様に児童館・学童保育所の魅力をPRしていくことをめざして、期間限定ではなく、YouTubeチャンネルを活用した常設の「とびだせ！やんちゃんねる」チャンネルを開設します。

### 2 令和5年度 活動報告

\*令和5年12月1日～常設での実施。

動画投稿数：256

総視聴回数：126, 227回

チャンネル登録者数：384

過去3年間の投稿作品について再度施設に投稿可否を確認し、239件の過去作品を投稿しました。令和5年度に新たに投稿依頼のあった作品は17件でした。引き続き、積極的な投稿を呼び掛けていきます。

## 6 子育て支援のための普及事業・京都はぐくみ憲章の啓発活動

### 1 令和5年度 事業目標

公益社団法人として、広く市民・府民に子育て支援の場や機会を設け、子育て家庭に対し親子が共に楽しめるひとときを提供するためにスタートした事業です。連盟としては、さまざまなイベントへの参加を含め、連盟の果たす役割をアピールする機会の増加に努めます。また、京都市が定めた「子どもを共に育む京都市民憲章(愛称:京都はぐくみ憲章)」の普及啓発を図ります。

### 2 令和5年度 活動報告

「親子でにこにこ 笑顔いっぱい」～『子どもを共に育む京都市民憲章』をひろめましょう！～

日 時：令和5年11月4日 11:00～15:00

会 場：京都市呉竹文化センター（京都市伏見区）

公演内容：「京都はぐくみ憲章ステージ」 「ノントン着ぐるみショー～みんなであそぼう～」



子どもを共に育む京都市民憲章(京都はぐくみ憲章)の普及啓発のためのイベントとして、昨年度に続いて午前の部・午後の部の2回公演を実施しました。今年度は新型コロナ感染防止対策としての人数制限がなくなったことから会場収容人数一杯の1,200名で募集したところ、約3,400名の応募があり抽選で参加者を決定しました。

来賓の京都市副市長から市の子育て支援施策に対する取組などについて御挨拶をいただいた後、クッキーによる京都はぐくみ憲章啓発ステージと歌はともだちコンサート、続くノントンの着ぐるみショーに子どもたちは大喜びでした。

終了後のアンケートでは、「子どもを舞台のある場所へ連れていきたいが、チケットがなかなか取れなかったり、高額だったりハードルが高い中、子どもも知っているキャラクターや音楽で楽しめる舞台を見ることができて本当に感謝です。」「子連れで参加できるコンサートは限られているので貴重な機会でした。」「コロナ禍に子どもが生まれて、ほとんどイベントがない中での子育てでした。今回のようなコンサートは初めてでとても楽しかったです。」等の声が寄せられました。

## 「第12回 京都子ども将棋交流大会」

令和4年度の実務担当者会議にて、令和5年度以降の開催時期の変更に伴う協議が行われ、協議の結果、令和6年夏開催とすることにした。

背景として、令和4年度の開催が令和5年3月であるため、令和5年度の夏開催とした場合、準備期間が短いこともあり、令和5年度の開催は見送り、令和6年度から夏開催とすることとなった。

開催時期の変更については、令和6年1月に各施設へメールにて周知した。

### <第12回 京都子ども将棋交流大会について>

#### 1 予選会

【期 間】 令和6年6月中                   【会 場】 各児童館・学童クラブ

【開催方法】 特に指定はありません。【定 員】 なし

【対 象】 低学年の部

京都市の児童館・学童クラブを利用している小学1年生～3年生

高学年以上の部

京都市の児童館・学童クラブを利用している小学4年生～中学1年生

\*開催時期変更による特例措置として、第12回大会のみ中学1年生の参加を可能とした。

#### 2 本 選

【日 程】 令和6年8月10日(土) 10:00～16:00

【会 場】 北野天満宮 文道会館(京都市上京区馬喰町)

【開催方法】 トーナメント戦 \*将棋連盟指導員による指導対局や選手同士の交流対局も実施予定。

【定 員】 各部とも64名

【対 象】 各施設の予選会にて決定した代表選手。

\*各施設の本選出場者数については、総参加人数と各施設の参加人数を比例配分方式で算出する。

## 7 大学と連携した学習支援事業

### 1 令和5年度 事業目標

本事業は、「子どもの学力・学習等の状況」、「子どもの自己肯定感」に関する課題に着眼し、これらの課題に対して、地域の子どもたちへの学習支援に取り組むものとし、大学生ボランティアの力を生かし、保護者以外の大人との関わりの機会を通じて、自己肯定感を高め、子どもの孤立化の解消を図ります。

### 2 令和5年度 活動報告

#### (1) 事業の実施体制

児童館：施設の提供、学習支援事業のコーディネート

大学生：子どもへの学習支援、相談支援

京都市：事業への助言、技術的指導等の支援

児童館学童連盟：事業を実施する児童館のサポート

#### (2) 実績

令和5年度は、連携大学である京都橘大学の文学部と連携し、ボランティア活動体験の学生を近隣の児童館とつなぎ、大学生に学習支援事業を体験する機会を作りました。

## 8 学童クラブ利用料算定事業

### 1 令和5年度 事業目標

京都市の学童クラブ利用料金は、登録者が利用する内容に応じた応益負担制となっています。連盟事務局では委託を受けた児童館・学童保育所の利用料算定事務を、公平・適正かつ速やかに実施することを目標に業務を進めます。

### 2 令和5年度 活動報告

学童クラブの登録児童数は従来から増加傾向にありましたが、「子ども子育て支援新制度」開始により利用対象児童が小学校6年生までに拡大されたことを受けて、利用者ニーズは拡大を続け、令和2年度以降登録児童数は14,000人を超えています。

また、令和4年度には利用料金の体系が応能負担から応益負担に大きく変更となり、利用日が平日のみか土曜日利用もあるか、利用時間が17時までか18時30分までかによって月額の基本料金が決まったうえで、配慮が必要な世帯や多子世帯等に対する軽減措置が適用される料金体系となりました。この制度改正に伴い、利用時間や曜日の変更による利用料金の変更機会が増えたことや、減免対象世帯における年度途中での手続が必要となったこと等、新たな事務負担も生じています。

連盟事務局では加盟団体における事務が滞ることのないよう、利用料金算定システムの整備を行い、迅速に利用料金の決定通知を施設に届けられるよう努めました。特に1月から3月にかけては、令和5年度

の料金算定事務と並行して令和6年度に学童クラブに登録される世帯の利用料金の算定も行い、例年は4月中旬に通知していた当初の利用料金決定通知書を3月25日に発送することができました。

## 9 京都市家庭ごみ有料指定袋無償配布事業

### 1 令和5年度 事業目標

連盟は京都市から新生児出生世帯に対する配布窓口事務を受託しています。

市内全児童館でスムーズな配布事業を遂行するとともに、新生児を持つ世帯に対し、児童館が実施している乳幼児対象事業及びに子育て支援の機能について、周知広報することを目標とします。

### 2 令和5年度 活動報告

#### (1)配布対象

京都市内の新生児を養育する世帯で、京都市保健福祉センターから届けられる「出産お祝いレター」の受取世帯を対象とします。

#### (2)配布内容

出産お祝いレターに同梱されている「家庭ごみ有料指定袋無料引換券(新生児減免用)」を児童館に持参された保護者に対して、指定袋(燃やすごみ用)「30リットル袋40枚」、又は「20リットル袋60枚」の引換配布を行いました。その際、保護者に対し、児童館の乳幼児対象プログラムを記載したPR用のチラシ等を配布し、児童館の利用を促すためのPRを行いました。

#### (3)引換実績

児童館では毎月末に集計を行い事務局に報告、事務局では全館集計の結果を環境政策局資源循環推進課へ報告を行いました。令和5年度の総引換え件数は1,310件となりました。

## 10 無料職業紹介事業

### 1 令和5年度 事業目標

児童館・学童保育所における人材の確保を進めることを目的に、平成31年1月に厚生労働大臣の許可を受け、「無料職業紹介 児童館人材マッチングセンター」を開設し、5年が経過したなかで、登録会員数、マッチング数も徐々に増えてきています。その中で、求人者(人材を求める運営団体)のニーズをきめ細かくリサーチし、求人者と求職者の双方に満足のいくマッチングを実現し、連盟加盟各団体の児童館・学童保育所における人材確保を通じてその事業実施支援に努めていきます。

### 2 令和5年度 活動報告

児童館人材マッチングセンターのPRを推進するため、会員児童館の協力を得て、実際に児童館で働く職員が児童館職員として働くなかで感じた「やりがい」に関する声を掲載し、児童館職員という職業の魅力を知ってもらえるように作成されたパンフレットを活用し引き続き広報しています。

また、就職フェア（京都市保育園連盟主催）に2回参加し、希望する会員の求人情報を持参し、来場者にPRを行いました。

さらに、京都府が主催する「京都ジョブパーク」とも企業応援団登録という形で連携し、より幅広い人材を児童館に迎え入れる窓口を設けました。

マッチングセンター紹介事業実績（期間:令和5年4月1日～令和6年3月31日）

(1) 求職登録	正職員	15名
	臨時的任用職員	0名
(2) 求人登録	正職員	29件
	臨時的任用職員	22件
(3) 採用件数	正職員	1名
	臨時的任用職員	0名

## 11 大学生等職業体験事業

### 1 令和5年度 事業目標

児童館・学童保育所における人材の確保については困難な状況が続いています。その中で、京都芸術大学、京都橘大学、京都市、連盟の4者が連携協定を締結し、児童館において職業体験事業を行うことで、学生ならではの発想や行動力を生かした児童の健全育成活動の活性化や、大学生の知識や技術の向上、人材の育成を図り、児童館で働きたいといった意欲を持つ学生を今まで以上に増やすことを目指しています。

### 2 令和5年度 活動報告

令和5年度は、京都橘大学から4名の参加があり、3箇所の児童館で職業体験事業を行い、京都芸術大学からは6名の参加があり、4箇所の児童館で職業体験事業を行いました。それぞれの大学と連携を図りながら行い、参加した学生には、①地域における児童館の役割について ②児童館職員の役割についてを事前のガイダンスや事前オリエンテーションで説明し、児童館職員として働くことの魅力を伝えながら進めていきました。実際の体験活動の際には、子どもたちとの関わりや事業体験だけではなく、職員会議への参加等、児童館で働くことを意識できる内容を取り入れながら行いました。

#### 京都橘大学職業体験事業スケジュール

項目	内容
事前学習 (6月初旬)	・インターンシップに向けた基礎的準備学習 ・エントリーシートなどの提出書類の作成
オリエンテーション (6月10日)	・インターンシップの流れ ・目的、目標の参加学生同士での共有
施設訪問 (7月中旬)	・施設の説明 ・エントリーシートの提出

実習 (8月1日～9月8日)	・就業体験(期間のうち5日間)
事後報告会 (12月)	・振り返り

#### 京都芸術大学職業体験スケジュール

項目	内容
事前説明会	・事業ガイダンス ・研修「児童館・放課後児童クラブの基本機能と役割について」
施設での職業体験	8月5日～9月8日(うち5日間)

## 12 フードドライブ事業

### 1 令和5年度 事業目標

食品廃棄(フードロス)の削減に向けた取組として、令和4年度から本格実施を行っているフードドライブについて、児童館・学童保育所が取り組むにふさわしい事業として引き続き実施していきます。また、子どもたちがこの取組を自らにかかわる問題として考えていくきっかけとすることや、例えば老人施設等の実現可能な取組を模索することなども含め、連盟としてこの事業に取り組んでいくことの意義の明確化に努めてまいります。

### 2 令和5年度 活動報告

令和5年度は、全館所を対象にブロックごとに実施し、全体で約2.5トンの物資が集まり、NPO法人セカンド・ハーベスト京都を通じて必要とする方々に届けられました。

ブロック	実施期間	回収量(kg)
1ブロック	9月11～16日	370.7
2ブロック	7月10～15日	240.5
3ブロック	10月16～21日	674.6
4ブロック	11月13～18日	467.5
5ブロック	6月12～17日	170.6
6ブロック	12月11～16日	387.6
7ブロック	1月15～20日	147.6
合計		2,459.1

また、京都府消費生活安全センターと連携し、大学生による食品ロスについての出前講座を全ブロックで行いました。

ブロック	施設名	講座実施日
1	聚楽児童館	9/16 (土) 11:00~11:45
2	南大内児童館	8/22 (火) 16:00~16:30
3	養正児童館	10/12 (木) 16:00~16:45
4	醍醐児童館	9/7 (木) 15:30~16:30
5	葛野児童館	6/14 (水) 15:15~15:45
6	城南児童館	12/16 (土) 15:00~15:45
7	桂坂児童館	2/15 (木) 15:00~16:00

いずれの取組も、子どもたちがフードロスについて興味を持ち、自らにかかわる問題として考えていくきっかけになりました。

## 13 京都市ファミリーサポート事業

### 1 令和5年度 事業目標

近年、共働きでの子育て環境は整いつつあるものの、保育園、幼稚園の保育時間と保護者の就労時間との間に依然としてそごがあります。加えて習い事等の増加により依頼会員のニーズは多様化しており、その幅広いニーズに応えるためにも提供会員の確保と定着を図ることが大きな課題となっています。

そこで、いくつかの「ブロックやんちゃフェスタ」にブース展開し、幅広い市民にファミリーサポート事業をPRする取組を行うとともに、ホームページをリニューアルし、幅広い層に訴求する取組を強化します。

依頼側、提供側の会員が双方ともに安心して活動できるよう提供側の会員に対して救命講習の受講を促します。

依頼会員に登録するための登録会に参加できない登録希望者に対しては現在DVDを貸し出し、動画の視聴後入会手続を行っていますが、今後はデジタルコンテンツ化し、オンラインで視聴できるようにします。

### 2 令和5年度 活動報告

#### (1) 会員の登録数と活動内容

##### ①会員数の推移

会員種別	令和5年度 (人)	令和4年度 (人)	増減 (人)
依頼会員	4,651	4,954	△303
提供会員	939	914	25
両方会員	141	152	△11
合計	5,731	6,020	△289

②活動数と活動内容

活動数の推移

	令和5年度	令和4年度	増減
活動総数	8,229	8,124	増105

活動内容の推移

活動内容の上位	令和5年度	令和4年度	増減
1.こどもの習い事等の援助	2,206	1,922	増284
2.保育施設の登園前の援助及び送り	2,128	1,742	増386
3 保育施設の迎え及び帰宅後の援助	1,780	2,246	減466

(2) レベルアップ講習会の開催について

①事故防止のための救命講習の開催

「普通救命講習Ⅲ」については受講者を増やすため、6回開催し、未受講者へ受講を促しました。

②資質向上のための講習会の開催

「食生活と栄養」、「発達特性のある子どもへの対応」を開催しました。

(3) ホームページの更新について

会員数、活動数、登録会・講習会の開催について、毎月月初に最新のデータに更新を行いました。

(4) 啓発活動について

「児童館・学童保育所まつり」にブース展開し、幅広い市民にファミリーサポート事業をPRする取組を行いました。

内 容：魚釣りゲームとリーフレットを利用した事業のPR

	第3ブロック 児童館・学童保育所まつり	第2ブロック 児童館・学童保育所まつり
日 時	令和5年5月13日(土)10時～15時	令和5年10月28日(土)10時～15時30分
会 場	宝ヶ池公園 子どもの楽園	梅小路公園 七条広場
参加者	乳幼児親子110組 学童クラブ登録児童50人	乳幼児親子150組 学童クラブ登録児童60人

(5) 会議・登録会・講習会・交流会等実績

①会議

会 議	内 容	時間数	回 数
地域リーダー会議	広報活動の準備、登録会・講習会での体験談の報告内容の調整 等	2時間	11回
支部長会議	統括、次年度の計画 等	2時間	1回

②登録会・講習会

登録会・講習会	内 容	時間数	回 数
登録会 (本部3回・支部45回)	依頼会員に登録するための登録会	1時間	48回
講習会 (本部2回・支部3回)	提供会員に登録するための講習会	6時間30分	5回

レベルアップ講習（実技）	普通救命講習Ⅲ	3時間	6回
レベルアップ講習（講義）	食生活と栄養	1時間30分	1回
レベルアップ講習（講義）	発達特性のある子どもへの対応	2時間	1回
レベルアップ講習及び交流	子どもと保護者への接し方のヒント	2時間	1回

## II 施設運営

### 1 児童館の運営

#### 1 令和5年度 事業目標

令和2年4月から京都市における「京都市はぐくみプラン」が施行され、児童館に対する子育て世帯ならびに市民の期待はますます高まりを見せています。また、令和3年3月には、「京都市児童館活動指針（第4時改訂版）」が策定され、今後の児童館・学童クラブ事業の方向性が示されました。

そのような中で、連盟が運営する8箇所の児童館は、下記に掲げる方針・目標を設定し、地域の関係団体とも連携を密にし、今年度も続く新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら事業を継続し、市民の期待に応えられる児童館運営に取り組めます。

また、職員一人ひとりのコンプライアンス意識の向上、資質の向上に取り組み、職員の研修機会を積極的に設けていきます。

#### 2 令和5年度 活動報告

各児童館の令和5年度の事業目標と成果は下表のとおりです。各館共に新型コロナウイルス感染症の取扱いが5類に変わったことを受け、児童館事業・学童クラブ事業ともに徐々に制限を見直して活動の幅を回復するとともに、各館の個性を生かして「こどもまんなか」を実現するための模索を深めたことが伺えます。



		児童館事業	学童クラブ事業
壬生児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遊びを通して、子どもたちの健全育成と社会性の向上を目指します。</li> <li>○子育て世帯の居場所をつくり、乳幼児クラスの充実と子育て支援講座を行います。</li> <li>○気になる家庭への支援、地域や関係諸機関との連携を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な生活習慣を身につけ、遊びや集団生活を通して協調性や自主性を養います。</li> <li>○個別の支援と集団活動の取組によって、自尊心を高めます。</li> <li>○保護者が安心して預けられるよう信頼関係を築きます。</li> <li>○学校や地域、関係諸機関と連携を図ります。</li> </ul>
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○登録制の乳幼児クラブでは、特に乳児クラスの登録数や参加率が増えました。3クラス一緒に活動する合同クラスも開催し、運動会やクリスマス、節分や動物園へのお出かけなど、月齢の異なる親子同士の交流が図れました。</li> <li>○子育て支援講座では、新たな内容として、お父さんを対象にした講座や、作業療法士による発達と絡めた遊びの講座を開催し、お父さん同士の交流につながりました。</li> <li>○自由来館では、中高生世代の利用が増えました。小学生と遊んだり、中高生世代同士や職員とおしゃべりしたりする他、秋の児童館まつり「わくわく子どもマーケット 2023」では、自ら進んで1ブースを担当して、準備から熱心に参加していました。また、小学校に行きづらくなっている子どもたちが児童館によってくれることがあり、さまざまなことを抱えている子どもたちにとっても“気軽に行ける場所”“ちょっと行ってみようと思える場所”として活用できるように今後も居心地のよい環境を整えていきたいと思えます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○縦割りの班活動での取組や毎日のそうじチェック普段の遊びなどを通して、周りのことに目を向け、自分や友だちのすごいところに気づける姿が見られました。</li> <li>○あそび教室やクラブ等の取組では、1年間続けて取り組むことで、それぞれにできるようになったことが自信につながりました。</li> <li>○配慮が必要な子どもへの対応については、保護者や小学校と連携しながら、遊び込めることや褒めることを大切にすることで、落ち着いて過ごすことにつながり、周りの友達と楽しく遊べることなどが増えてきました。</li> <li>○「わくわく子どもマーケット 2023」の児童館の秋祭りでは、学童クラブの保護者の方が主催となって企画・運営し、運営協力会の方々や地域の方々の協力も得て、にぎやかで楽しいお祭りを開催することにつながりました。子どもたちも学童クラブ担当のお店の役割を全うし、「またやりたい」という声が聞かれました。</li> </ul>

七条第三児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近にある児童館として気軽に立ち寄り、子育て相談や仲間づくりができるよう支援します。</li> <li>○子ども自身が企画し考える力を伸ばせるような取組をすすめます。</li> <li>○情報収集をしっかりとってニーズに合わせた思春期児童の居場所を確立します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な生活習慣や社会性を身につけられるように段階をふまえ指導します</li> <li>○子ども達が主体となるような取組をふやし生活場面に応じた行動力をはぐくみます。</li> <li>○縦割りを意識し、3年生以上のリーダーシップを育てます。</li> </ul>
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○乳幼児クラブやあそびの広場ともに多くの参加者があり、仲間づくりの一端を担うことができました。特にママノートは記録を楽しむサークルとして母親同志の会話を楽しみながら取り組むことができました。</li> <li>○子育て相談の日として「七三ちょこちゃん」が定着し、参加している統合育成主任からのアドバイスに基づき日常のサポートにも取り組みました。</li> <li>○自由来館児童の思いや意見を受けて、行事や日常の活動で企画が実現できるように取り組みました。ニーズに沿った活動を設定し、主体的な参加を促すことで体験の幅が広がり、自主性・主体性の育成につながりました。</li> <li>○中高生世代には継続的に関わり、話し相手となるように関係を築きました。その中で居場所として来館したり「やりたいこと」の発信から「夏まつり」等の活動を実現したりすることができました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年ごとに昼食やおやつ時間を区切ることでその年齢に応じたルールやマナーを体験的に学習しました。特に1年生はランドセルのしまい方や荷物の整理、学習など4月のうちに丁寧に説明する等、積み重ねを経て基本的な生活習慣を身につけることができました。また、遊びを通して社会性の育成に努めました。</li> <li>○子どもたちの意欲や意見の尊重を意識した取組が実現できるよう支援しました。あそびの大会や季節行事等、職員が計画するのではなく子どもたちが予定や内容を組み立て、子どもたちの発信で活動できる場面が増えることで主体的な活動につながりました。</li> <li>○始めに各学年会議を中心にそれぞれの目標を立てることで、学童クラブ全体の目標につなげていきました。特に3年生以上には活動の企画・運営を任せて、中心となって実施する体験を重ねることで、他者との関わり方を学び、責任感や自主性が育まれました。</li> </ul>

今熊野児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安心して過ごせる場を提供し、仲間と遊ぶ楽しさを感じる機会を作り、異年齢の子ども同士と関わることで互いに思いやりを持って過ごせるように支援します。</li> <li>○子育て家庭が集える場を作り、相談などが気軽にできる雰囲気づくりに努めます。</li> <li>○地域の実態を把握し、地域の方が自発的に参加したくなるような取組を企画し、子どもたちとふれあう機会を作ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活の中で子どもの自立を積極的に促進し、さまざまな生活場面に応じた判断力、行動力を育めるよう支援します。</li> <li>○あそびや活動を通して、子どもが達成感や学童クラブへの所属感を得られるよう支援します。</li> <li>○保護者の就労等の生活を継続的に支える安心安全な支援を推進します。</li> </ul>
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学生を対象としたクラブ活動や行事を通して、子ども同士が思いやりを持ってお互いに関わりあう機会を作り、子ども自身が最後までやりきることによって達成感を感じられるように支援することができました。</li> <li>○子育て家庭においては、気軽に相談しやすい雰囲気づくりに努め、孤立感や不安を感じている家庭への支援につなげました。また、子育て家庭に東山区での子育て支援の取組を紹介することでさまざまな機関と子育て家庭をつなげることができました。</li> <li>○児童館まつりなどの行事を通して、地域の方々にもたくさんの参加を促すことができ、地域の中で児童館という存在を高めることができました。次年度も地域の方が気軽に訪れることができる場所となるように努めていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍の頃には難しかった班活動を通して、年下の子に対する思いやりの気持ちや、リーダーシップを発揮する場面等、各々が学童の班やチームの一員であるという自覚を持つことにつながりました。また、異年齢で関わる場面が多くなることで社交性や協調性を育むことにつながりました。</li> <li>○年間を通して、ICTの利用についての保護者への周知や、実際に活用した登録申請を行い、昨年度よりも円滑にICTの活用を進めることができた。今後もICTを活用することで保護者への情報共有を進め、保護者の方が安心して子どもを預けられる環境づくりを進めていきます。</li> </ul>

四ノ宮児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域と共にあることを自覚し、地域に信頼され、親しまれる児童館を目指します。</li> <li>○地域各種団体と連携し、情報を共有しながら、地域の子育て支援に貢献します。</li> <li>○利用者のニーズに応え、利用者寄り添った活動を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○異年齢集団を活かした活動を通し、児童が主体的に活動できるよう支援します。</li> <li>○児童、保護者との信頼関係を構築し、安心できる居場所・生活の場となるよう努めます。</li> <li>○児童、保護者、学校、地域と連携し、個々の家庭の状況に合わせた支援を行います。</li> </ul>
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○乳幼児クラブや子育てパワーアップ講座、子育て相談等、児童館の取組を通して、乳幼児親子に交流の場として利用していただくことができました。</li> <li>○各遊びのクラブ活動は、内容が豊富になり活動の幅が広がり、子どもたち自身が主体的に活動することにつながりました。</li> <li>○地域の取組が再開され、さまざまな形で子どもたちや職員が参加することで、地域の方々との交流を促進することができました。</li> <li>○じどうかんまつり等、児童館の取組も徐々に再開することができ、児童館の活動を通して、児童館を知ってもらう機会や、交流の場が増えました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が自分で考え、自分で決めて行動できるように働きかけを行い、子どもが主体的に活動する姿が増えました。</li> <li>○異年齢集団としての活動を意識して行うことで、高学年児童はリーダーとしての自覚が生まれ、低学年児童はその姿を見て、行動する姿がみられるようになりました。異学年の交流が常にあり、児童館ならではの活動を行うことができました。</li> <li>○手洗い、うがい、消毒は引き続き行っており、感染症対策としてだけでなく、日常の習慣として身につけることにつながりました。</li> <li>○個々の家庭の状況を知り、保護者の思いを受け止めながら、子どもや保護者との関係構築に努めました。また、小学校や関係機関と連携して支援を継続しました。</li> </ul>

梅津北児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○利用者からの多種多様なニーズに応えられる多機能性を生かし、地域全体で子どもを育てていくための中核的役割を果たします。</li> <li>○地域に寄り添い、地域の拠点となり、子どもの最善の利益を優先した心身の育成を目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学童クラブを「安心できる居場所・拠り所」として確立していきます。</li> <li>○異年齢集団としての連帯感を深め、互いの違いを認め、尊重し合える関係を築きます。</li> <li>○個々の状況に応じた支援のもと、自主性を高め、自立に向けて生きる力を育みます。</li> <li>○家庭や関係機関と連携し、保護者が安心して子育てできるよう支援します。</li> </ul>
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「乳幼児クラブ」や「広場活動」を通して子育て家庭のつながりを大切に取り組みました。特に転入してこられた方にとって地域の情報が聞きやすいと喜ばれました。年度途中から利用者の声を拾い「ランチタイム」や「カフェタイム」を実施しました。慌ただしく帰る必要がなく子どものペースで過ごすことができると喜びの声をいただきました。</li> <li>○同じ敷地である小学校の周年事業に合わせて地域やPTAと協力し児童館まつりを行うことで、連携を進めて事業を盛り上げることができました。</li> <li>○子どものやりたい声を拾うため「あのねこ」箱を設置しており、その子どもの意見から「ぬりえ大会」を実施しました。大会のルール等も子どもの意見をまとめて進めることができました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学童クラブ保護者へ向けて日々の子どもの様子や小さなケガ等でもアプリのメッセージを用いて丁寧に伝え、情報を共有することで「安心できる居場所」づくりに努めました。特に年度末に開いた親子交流会では、日ごろの子どもの遊びを親子で体験していただき親子の会話の糸口につなげました。</li> <li>○みんな遊びの進行を3年生中心に進めることや、お誕生日会の司会進行を縦割り班で行うことで異年齢集団の連帯感を深めました。</li> <li>○終わりの会で友達の良いところを発表する時間を設けて、発表の数に合わせてハートのマークを貼る「幸せハート」の取組を行うことで、子ども同士が互いの違いを認め尊重しあえる時間となりました。</li> </ul>

西京極西児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○来館者にとって居心地の良い場所を提供できるように努めます。</li> <li>○職員の個性を生かした取組計画を立案します。</li> <li>○地域や関係機関との連携を密にし、信頼関係を築きます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活の場として居心地のよい場所作りと異年齢とクラス別をいかした活動を心がけます。</li> <li>○学童クラブ修了後の生活を見据えた活動を行えるよう支援します。</li> <li>○保護者との信頼関係を大切に、日々の声かけを意識し寄り添えるように努めていきます。</li> </ul>
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナが5類となり、自由来館児童に向けた取組を充実させる中で、定期的に利用する児童も増えてきました。</li> <li>○中高生世代の利用が増え、児童館を居場所の一つとして利用する中で小学生と交流する姿も多くみられました。</li> <li>○登録制のクラブ活動で子どもが主体的にやりたいことを企画・実行し、積極的に取り組む様子が見られました。</li> <li>○児童館から地域のイベントに積極的に参加し、また、地域の方に児童館へ足を運んでいただく機会を作ることで、子どもたちを知っていただく機会を作ることができました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○クラス分けの意識を高めることでクラスごとでの子どもと担当との関わりが密となりました。その中で、一人ひとりの意見を聞く機会につながり、子どもの意見を取り入れた活動につなげることができました。</li> <li>○保護者の方とはお迎え時やうえぶさくらのメッセージを活用して、日々の子どもの様子を丁寧に伝えることを意識しました。また、学童クラブの子どもの様子を知っていただく機会、また、親子での触れ合う機会として親子参加の取組も開催しました。</li> </ul>

南 浜 児 童 館	目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遊びを通じて子どもたちの健全な育成と社会性の向上・自立心を養います。</li> <li>○地域の各種団体と連携し、子育て家庭の支援に力を入ると共に、地域の方々との交流を図ります。</li> <li>○中高生世代の居場所作りを促進します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもたちのおかれている状況を把握し、保護者・学校・地域と連携しながら、社会性を養い、基本的な生活習慣を確立させます。</li> <li>○集団生活の中で自立心・責任感を育成し、協調性を養います。</li> </ul>
	成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルスが5類に移行する中ではあるが、罹患の報告をたびたび受けることがあり、感染症対策を講じながら、子どもたちの安心して安全な居場所となるように取組を進めました。</li> <li>○中高生クラブを毎月行うことで、中高生世代が気軽に集まる場となりました。</li> <li>○子育て家庭への取組では、ランチタイムを再開することで、子どもを連れていけて親同士でゆっくりと話ができる場所として喜んでいただけた。また、本の貸し出しが浸透し始め、楽しみにしている幼児さんが繰り返し利用をしていました。</li> <li>○秋には、お化け屋敷等が楽しめる「みなみはまパーク」を開催し地域の方との交流ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○例年以上に、保護者・学校との連携は密に行いました。また、地域行事の「生涯学習フェスティバル」に参加し、行事を通して学童クラブ登録児童と地域住民との交流につながりました。</li> <li>○集団生活において職員が声を掛け、上級生が下級生のお世話をする等の体験の中で、自立心や責任感、協調性を培うことができました。</li> <li>○夏休みには猛暑に備え、館庭での遊びを控える中で、室内での遊びを充実させることで子どもたちの活動を進めました。また、熱中症対策として、絶えず水分補給を促し、体調管理に目を配りました。</li> <li>○秋には、児童館のおまつり「みなみはまパーク」、また、伏見の児童館・学童保育所のおまつり「伏見子どもまつり」への参画、冬には4年生以上での「一泊キャンプ」、3年生までは、お出掛けといったように所外での活動も広げていき、体験の機会を作ることができた。</li> </ul>

横大路児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子育て支援事業の充実を図り、利用者に寄り添った活動を行います。</li> <li>○伸び伸びと活動させる中でも規律を重視します。</li> <li>○各種地域団体や関係機関との情報を密に連携します。</li> <li>○「しもよこっ子」開催団体との連携を強化します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学童クラブのルールを守ることで学びを身につけます。</li> <li>○規律のある生活習慣を身につけます。</li> <li>○手洗いなど感染対策への予防を徹底します。</li> <li>○登下館の際の安全指導を徹底し、子どもたち自身の安全意識を高めます。</li> <li>○保護者との信頼関係を築き、安心して子育てができるよう支援します。</li> </ul>
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○乳幼児クラブの回数を増やし、イベントや行事を多く企画することで、幅広い子育て家庭のニーズに応え、保護者同士がつながる機会を作ることができました。</li> <li>○一寸ぼうしの広場等の事業を通じて、地域の子育て支援活動に活動場所を提供することや、地域の事業に職員を派遣することで地域との連携を進めました。</li> <li>○広場活動では一人ひとりに寄り添い、子育ての話をしやすい雰囲気づくりを意識して行いました。その中で、職員間で情報共有を図りながら施設全体として関わり続けることで、乳幼児保護者の居場所の一つとなれるように事業を進めました。</li> <li>○中高生世代がサンタの衣装を着て乳幼児親子さんの所へ訪問しプレゼントを渡す企画をすることで、中高生世代も楽しみながら、乳幼児親子との関わる機会を作ることができました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遊びやクラブ活動を通して、友だちとのかかわり方、集団生活でのルールやマナーを知り、協調性や社会性を養う機会につながりました。</li> <li>○生活習慣を意識して取り組むことで、遊びや宿題をする時間を子どもたちで意識して放課後の時間を過ごすことにつながりました。</li> <li>○帰りの会の後に読書タイムを設ける事で、絵本や児童書を読む子どもたちが増えました。</li> <li>○親子参加の取組を実施し、運動会を開催したことで、保護者同士のつながりを作ることができました。</li> <li>○毎月のお誕生日会は、子どもたちが主体となり企画など意見を出し合い取組を行うことができました。</li> </ul>



## 2 つどいの広場運営事業

京都市から京都市子育て支援活動いきいきセンター(京都市乳幼児親子のつどいの広場)の運営を受託して実施する事業です。連盟が運営する「のこちゃん広場」が立地する洛西竹の里地区は少子化が進行し、特に0歳～3歳までの未就園児親子が、自然に親子同士で交流し、仲間作りをする機会が少ない状況にあります。その中で、子育て親子の孤立を防ぐことが趣旨の一つであるつどいの広場の運営に当たって、以下の目標を掲げて事業を実施しています。

### 1 令和5年度 事業目標

- (1) 地域の組織と緊密な連携を取りながら運営を進め、子育て親子と地域住民が交流を促進できるイベントを継続的に実施します。
- (2) 支援が必要な子ども・家庭について専門機関との連携を密にし、解決の糸口や対応の方法を探ります。
- (3) 利用者が頻繁に立ち寄り、子育ての悩みや相談について専門知識を持つアドバイザーへ気軽に相談できる態勢づくりを行います。

### 2 令和5年度 活動報告

つどいの広場事業では、令和2年度から刊行してきた広報紙「おうちじかんは思い出じかん」を、令和5年度も継続して発行するとともに、インスタグラムを活用した情報の発信を行い、家庭内で親子が孤立感を持つことなく穏やかに過ごせるような情報提供を行いました。また、電話や電子メール、インスタグラムのDM等による子育て相談を実施しました。

利用者に対しては、安心して利用していただくために、一度に利用できる人数に制限を設けて運営しました。また、コロナ等の感染症対策として、室内の消毒、使用後のおもちゃの消毒を行うとともに、室内の換気を行いました。

活動としては、子育て親子のふれ合いの場として「簡単にできる手作りグッズ」等のプログラムを充実させたほか、地域からの参加者も受け入れるヨガ教室を行い、幅広い世代が子育て家庭と知り合うきっかけを作りました。

また、職員の外部研修(オンライン開催等)に積極的に参加し、市内や全国の広場のスタッフが集まる研修・会議に出席することで、子育て支援に関する知見を深めるよう努めました。

洛西地域の子育て支援施設が参集して実施する会議やイベントについては、スタンプラリーのポイントとして参画するなどし、各機関との連携を意識した事業展開を図りました。

## III 法人管理

### 1 会員

会員数	令和5年4月時点	53会員
新規加入		0件
退会		0件
令和6年3月末会員数		53会員

## 2 総会・理事会

令和5年度（令和5年4月から令和6年3月）の総会・理事会の開催経過は次のとおりです。

### (1) 総会

会議の通算回数、開催日 及び場所	出席者数等	議 題
第14回定時総会 (令和4年度決算総会) 令和5年5月31日 京都JAビル	会員社員総数53名 出席会員社員数44名 (うち書面による出席者 23名)	○承認及び決議事項 (1) 令和4年度事業活動報告(案)の承認 (2) 令和4年度収支決算報告(案)の承認 (3) 役員選任の議決
第16回臨時総会 (令和6年度予算総会) 令和6年3月29日 京都JAビル	会員社員総数53名 出席会員社員数46名 (うち書面による出席者 29名)	○決議事項 (1) 定款の一部変更の議決 (2) 令和6年度事業計画(案)の議決 (3) 令和6年度予算(案)の議決

### (2) 理事会

会議の通算回数、開催日 及び場所	出席者数等	議題
第64回 理事会 令和5年5月17日 京都JAビル	理事総数 22名 定足数 12名 理事出席 16名 監事出席 1名	○審議事項 (1) 令和4年度事業報告(案)について (2) 令和4年度決算報告(案)について (3) 役員改選について 全て原案どおり承認されました。 ○協議・報告事項 (1) 寄附の申出について (2) 植村主任児童厚生員の着任について
第65回 理事会 令和5年5月31日 京都JAビル	理事総数 22名 定足数 12名 理事出席 19名 監事出席 2名	○審議事項 (1) 公益社団法人京都市児童館学童連盟会 長、副会長、常務理事の選任について (2) 公益社団法人京都市児童館学童連盟各 専門委員会委員長の選任について 全て原案どおり承認されました。
第66回 理事会 令和5年9月22日	理事総数 22名 定足数 12名	○審議事項

<p>京都市国際交流会館</p>	<p>理事出席 18名 監事出席 2名</p>	<p>(1) 令和6年度京都市予算に対する要望書(案)について (2) 職員研修管理・給与計算システム開発・保守業者選定について (3) 公益社団法人京都市児童館学童連盟 無料職業紹介事業の運営に関する規程の改正について (1)京都市予算に対する要望書(案)については一部の修正を含めて承認、(2)(3)議案については原案どおり承認されました。</p> <p>○協議・報告事項 (1) 令和5年度「とびだせ!やんちゃんねる」の開催について (2) 京都やんちゃフェスタの開催に向けて (3) 「親子でニコニコ笑顔いっぱい」の参加応募状況について (4) 4週8休制の効果検証のための調査について</p>
<p>第67回 理事会 令和5年12月18日 京都市職員厚生会 職員会館かもがわ</p>	<p>理事総数 22名 定足数 12名 理事出席 16名 監事出席 2名</p>	<p>○審議事項 (1) 職員研修履修管理・給与計算システム 開発 保守 業者選定について (2) 公益社団法人京都市児童館学童連盟職員出張旅費規程の一部改正について 全て原案どおり承認されました。</p> <p>○協議・報告事項 (1) 4週8休制試行中間報告について (2) 指定管理者の指定について (3) 親子でニコニコの実施報告について (4) とびだせ!やんちゃんねるについて (5) フードドライブの実施報告について (6) 全国児童館・児童クラブ大会について (7) 京都子ども将棋交流大会について (8) 連盟研修交流会について</p>

<p>第68回 理事会 令和6年3月15日 キャンパスプラザ京都</p>	<p>理事総数 22名 定足数 12名 理事出席 17名 監事出席 2名</p>	<p>○審議事項 (1) 定款の変更(案)について (2) 令和6年度事業計画(案)について (3) 令和6年度予算(案)について (4) 事務局・児童館職員就業規則改正(案)について (5) 事務局・児童館職員給与規程改正(案)について (6) パート・有期雇用職員就業規則改正(案)について (7) パート・有期雇用職員給与規程改正(案)について 全て原案どおり承認されました。 ○協議・報告事項 (1) 連盟研修交流会実施報告について (2) 令和6年度京都市児童館・学童クラブ関連予算について (3) 新たな人事給与システムの導入に係るデータ提供について (4) 4週8休制試行実施報告書について</p>
--	--	--

### 3 コンプライアンス研修会開催

職員の倫理意識向上と法人の健全な運営を推進するため、直営児童館8館の施設長、職員と事務局職員を対象に、12月20日、京都J Aビルにおいて、弁護士 里内友貴子氏を講師に迎え、ハラスメント防止をテーマに研修を行いました。館長・児童厚生員・クラス主任・クラス担当・事務局職員ら44名が参加し、参加者同士のグループワークも含め、法人内の職員が共通の規範意識を持つきっかけとなりました。